

高齢者施設訪問報告書

社会福祉法人香南会 グループホームひのきの里 訪問報告



クオール薬局杉ノ川店 津村

クオール株式会社

訪問・面談参加者一覧



所属 / 薬局名	氏名	職種・役職
グループホーム ひのきの里	大崎 千賀	管理者(介護福祉士/CM)
南ヶ丘薬局	宮本 晃圭	薬剤師
クオール薬局杉ノ川店	津村 優一	薬剤師
高知県須崎福祉保健所	池田 里美	医事薬事担当

施設より共有された主な課題



服薬介助の負担:

食前服用薬剤がある場合、介助回数が増加しスタッフの業務負担となっています。



ふらつきへの懸念:

入居者のふらつきに対し、薬の影響や安全確認の方法を模索しています。

施設より共有された主な課題



剤形による困難:

カプセル剤の服用が困難なケースがあり、対応が必要となっています。



同姓入居者の誤薬:

同性の入居者へお薬を取り間違えてしまうことがあります。

課題1：食前服用のタイミング改善

現状の課題：

特定の薬剤が「食前」指定であるため、食事前後の介助が分断され、スタッフの往復回数が増加しています。

薬剤師からの提案：

食後服用でも効果に大きな影響がない薬剤については、医師へ変更提案を行い、介助タイミングの集約を図るようにします。

課題2：ふらつきへの専門的対応



ふらつきの原因究明：

入居者のふらつきについては、薬剤の副作用だけでなく、脱水、体調変化、住環境など多角的な視点が必要です。

提案事項：

詳細な観察情報（いつ、どのように）を基に、薬剤師が解析を行い、医師と連携して対応策を検討します。

課題3：剤形の最適化（カプセル剤等）



代替剤形の検討：

同一成分または同効薬で、カプセル以外の剤形（粉薬、液剤、OD錠等）が存在するか即時に調査します。

処方医への提案：

服用困難な現状を定量的に医師へ伝え、飲みやすい剤形への変更提案を実施します。

課題4： 同姓入居者の誤薬防止策



識別向上のための具体的提案

視認性の向上：

色分けラベルや特定のシンボルによる視覚的識別

複数人での確認：

配薬準備段階でのダブルチェック項目の強化

薬の疑問点について薬剤師と相談できることを再確認できました。
入居者の変化については、スタッフ・医師・薬剤師での情報共有を
再度検討したいです。

－ グループホーム ひのきの里 管理者様

複数薬剤師による訪問のメリット



統一的な対応

各薬局間での対応方法を相互に確認し、足並みを揃えた統一的な支援を可能にします。

多角的な代替案

複数の薬剤師が知識を持ち寄ることで、施設様にとって最も負担の少ない最適プランを提示できます。

今後の介入予定



施設の要望：施設スタッフに向けた薬に関する勉強会の開催

時期：令和8年度以降

予定内容：施設スタッフの薬に関する知識向上

入居者の安全を守るための意識啓発

ご清聴ありがとうございました

